

目次

会長挨拶	1
西日本教育行政学会第46回大会の開催	3
総会報告	4
コラム 海外研究の現在	11
シニア会員だより	14
西日本教育行政学会第5回研究会のご案内	16
新入会員の紹介	16
事務局・編集チームからのお願い・お知らせ	18
・ 会費納入のお願い	
・ コラム等への執筆者募集	
編集後記	19

会長挨拶—2024年7月イギリスの総選挙政権交代雑感—



2024年の夏は近年にない格別な酷暑でした。この学会ニュースをお届けする頃には、ようやく秋の気配を感じられるようになりましたがいかがお過ごしでしょうか。この学会ニュースでは学会情報はもちろん読み物として価値のあるコンテンツを掲載することを目指しており、今号では去る5月25日に高松大学で開催された第46回大会の様子やシニア会員によるメッセージ等を盛り込んだものとなりました。今年度の大会につきましては、当日はもちろん、開催準備等に尽力いただいた松原準備委員長をはじめ、藤本事務局長、高松大学の皆さんには大変お世話になりました。大会、総会に引き続いての懇親会も多く会員の参加を得て、有意義な時間となったのではないかと思います。開催校の方々、参加された

会員の方々に厚くお礼申し上げます。

さて、会長あいさつの誌面をお借りして、教育行政の比較考察対象国として少なくない研究者が取り上げているイギリス事情について、「2024年7月イギリスの総選挙政権交代雑感」としてご紹介したいと思います。

ご存知の通り、イギリス総選挙が2024年7月4日（木）に実施され、大方の予想通り保守党政権から労働党政権へと14年ぶりに政権交代が実現しました。ちょうどイギリスの教育・リーダーシップ・マネジメント学会（通称 BELMAS）が開催される前日で、私がそこに参加するために開催地のスコットランド・グラスゴーに到着した当日のことでした。現在、露ウ戦争のためロシア上空を飛行できず北極回りルートで直行便でも13時間超を要するのが厄介ですが、イギリス国内での飛行機乗り継ぎを含め20時間の旅を満喫したのち、宿泊ホテルのチェックインをすませてさっそくBBCをつけてみました。夜10時に各局一斉に、予想通りの労働党の地すべりの勝利（victory with landslides）を報じました。過去2番目に低い60%の投票率であったそうですが、家庭や学校でも総選挙が話題になったり、家庭への戸別訪問が許されたりしているイギリス国民の政治への関心の高さが改めて感じられました（ちなみに後述の新しいフィリップソン教育大臣は15歳で労働党員になったといいま



す）。選挙当日深夜、キア・スターマー新首相は‘We did it!’と叫んで喝采を浴び、リシ・スナク前首相は‘I’ m sorry.’の言葉を残して翌日早々に官邸を後にしました。

投開票日の様子ですが、グラスゴー市議会庁舎に投票所が設置されていたと聞きました（市議会庁舎左写真）。イギリスでは期日前投票がスタンダードのせいか、私が到着した当日は実に雑然としていて、学校の体育館などで厳格公

正な投票プロセスを実現している日本の選挙日風景との違いが際立ちました。BELMAS が開催されたスコットランドでは独立党（SNP）が 47 議席から 9 議席に減るといった大敗を喫したことから、BBC 1 スコットランドがお通夜状態だったのが印象的で、イングランド事情を報じる他局はリズ・トラス元首相や現職のキーガン教育大臣の落選を繰り返し報じ、労働党のお祭り騒ぎ、保守党の反省会の特番が延々と続いていました。開票時には各選挙区に設けられている選管事務所（開票所：学校の体育館や公共施設のホールですね）に立候補者が集まり、当確が出た時点で勝利者に敗者が歩み寄り握手する光景がみられました。万歳三唱の当選者と「私の不徳の致すところ」と定番の敗戦の弁を語る落選者のコントラストに馴染んだ日本人の感覚に照らせば、勝者と敗者の選挙後の言葉の交わりあいはきわめて新鮮にうつりました。当選者は冷静に今後どうするかを語るなど、戦後すでに政権交代を 8 度経験しているイギリスの民主主義と日本のその差を強く感じました。ポンコツと揶揄されるような大臣のせいで混乱する国会としつこい報道にうんざりすると同時に、それに振り回される官僚が気の毒だし、与党内の党首選挙が疑似的な政権交代として映ってしまう日本の政治風景の独特さを改めて実感できた次第です。私の教育行政学の授業では、政治的中立性の原則の解説やその担保の必要性を特に時間をかけて解説したり、政党と文部科学省の関係について掘り下げたりしているのですが、政治的関心が薄い学生たちにどう語り掛けるかをいっそう思案しなければならぬと強く思っています。



今後のイギリス教育行政の展開については 2 児の母であるブリジット・フィリップソン新教育大臣（左写真）の打ち出す方針に注目が集まっています。母子家庭に育ち貧しさゆえに

じめにあっていた経験をもとに、無償給食の拡充と十分な保育学校の確保、特別支援教育への即時支援、教員不足の解消、学校施設の老朽化対策、強烈なストレスをもたらしている Ofsted による学校査察の縮減、労働者階級の子供たちに必ず 2 度のチャンスを用意したいという影の内閣時代の公約がどのように実現されるか、引き続き注目したいと思います。

2024 年 8 月 23 日

西日本教育行政学会長 高妻 紳二郎

西日本教育行政学会第 46 回大会の開催

2024 年 5 月 25 日、西日本教育行政学会第 46 回大会が松原勝敏会員を大会準備委員長として、高松大学で開催されました。参加者数は 27 名でした（非会員 3 名含む）。多くの会員・院生の方々に参加していただき、心から感謝申し上げます。

当日は、午前中に役員会、午後から研究発表、総会、懇親会が行われました。研究発表では 5 件の発表がありましたが、5 件とも、中国、アメリカ、モンゴルというように国外を研究対象としており、グローバルな学会であることを改めて認識しました。また、研究テーマも幅広く、就園教育機会の保障、学校改善、学校給食、チャータースクール、教員評価など、発表者の関心に基づいて多種多様な研究課題が設定されていました。どのテーマも興味深く、これからの教育行政学を考える上で重要な課題でした。質疑応答や総括討議では活発な議論が展開されました。緊張感のある刺激的なやり取りが行われることもあれば、これからの研究のヒントになるような支援的なコメントもありました。発表者、参加者ともに有意義な時間を過ごすことができたように思います。

総会後は、瓦町駅付近まで移動し、懇親会が行われました。大会準備において、どこで懇親会を開催するかは大会準備委員長と最も熟考したものでしたが、最終的に、骨付鶏、オリーブ豚、オリーブハマチ、しょうゆ豆、小豆島素麺など、香川県の名物を楽しめる店にしました。参加された先生方からは、おいしかった、次から次へと料理が出てきて満足したという声を多く聞き、この店にしてよかったと安堵しています。懇親会では、院生がベテランの先生方に修士論文の相談をしたり、中堅の先生方が勤務校の状況について意見交換したり、盛会のうちに終了しました。本学会の温かい雰囲気改めて感じられる時間でした。

至らぬ点多々あったかと思いますが、多くの先生方にご協力をいただき、無事に大会を終えることができました。厚く御礼申し上げます。

第 46 回大会準備委員会事務局長 藤本 駿（高松大学）



総会報告

研究発表後、引き続き総会が開催され、以下の事項が審議・報告、了承されました。

<議 題>

[一] 会務（2023.5.20~2024.5.24 編集事務を含む）について

(1) 紀要『教育行政学研究』第44号の寄贈

大学図書館、研究機関、研究団体に第45号とともに寄贈予定。

(2) 学会ニュースの発行

学会ニュース第66号（2023.9.30）及び67号（2024.3.31）を発行した。

(3) 学会費納入の督促について

12月に紀要発送とともに会費納入の督促を行った。

(4) 第45回大会（福岡大学）の開催（2023.5.20）

5月20日（土）に第45回大会を開催した（福岡大学）。

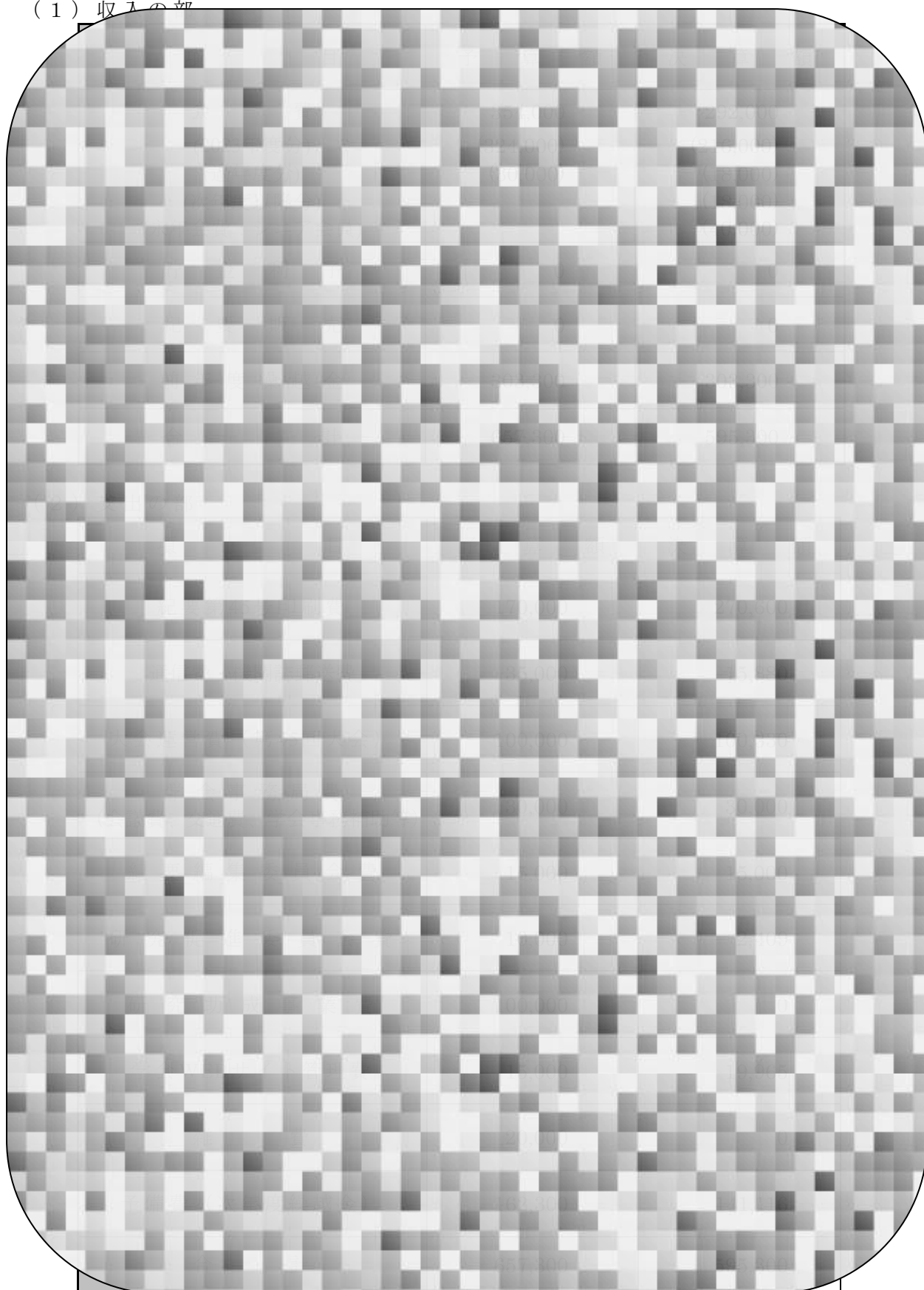
(5) 紀要『教育行政学研究』第45号の発行（200部）

(6) 研究会について

12月23日（土）に第4回研究会を開催した（広島大学きてみんさいラボ）。

【二】 2023年度（2023.5.20~2024.5.24）決算（暫定）について

（1）収入の部



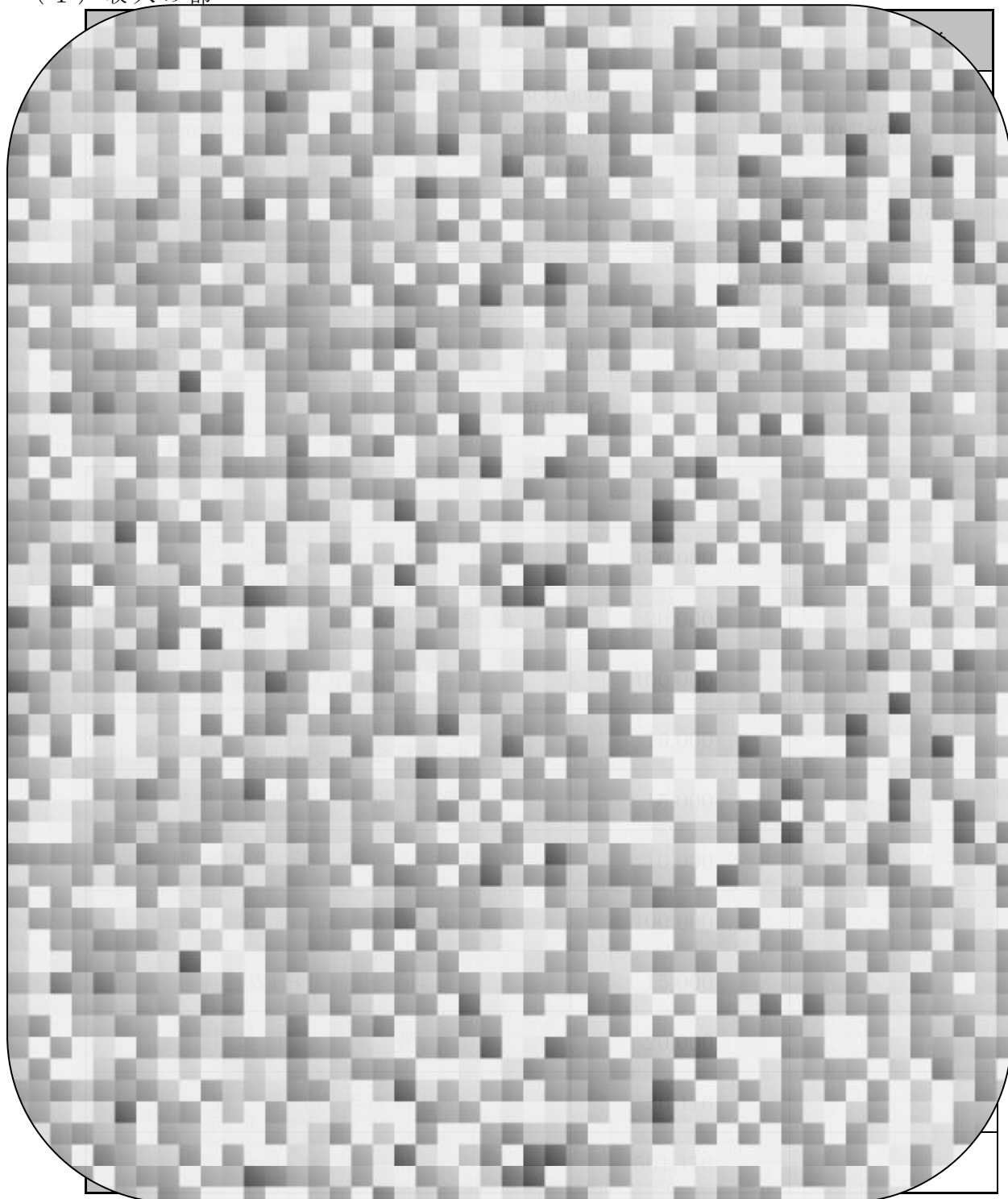
【三】 2023年度会計監査について

2023年度決算（2023.5.20～2024.5.24）の監査報告

次頁の通り、大会後に監査の市田敏之会員、藤村祐子会員より、2023年度決算（2023.5.20～2024.5.24）の執行状況が監査され、正当に執行されていることが報告された。

【四】 2024年度予算案（暫定）について

（1）収入の部



監査報告書

2024年7月22日

西日本教育行政学会会長 殿

監査氏名 市田 敏之



西日本教育行政学会2023年度会計の執行状況を、帳簿その他の出納記録ならびに領収証、現金について監査した結果、正当に執行されていると認めます。

監査意見

特になし。

監査報告書

2024年 7月3日

西日本教育行政学会会長 殿

監査氏名

藤村祐子



西日本教育行政学会2023年度会計の執行状況を、帳簿その他の出納記録ならびに領収証、現金について監査した結果、正当に執行されていると認めます。

監査意見

【五】次期開催地について

【六】 紀要送付先等について

会員 58
寄贈 教育・研究機関 0

【七】 学会費納入について

学会メーリングリストを活用し、複数回、学会費納入の督促を行う。

【八】 その他

3 報 告 事 項

【一】 紀要編集委員会からの報告

紀要編集委員会から報告させていただきます。まず、ご投稿いただきました会員の皆様、ならびに査読、編集にご協力いただきました方々に深く感謝いたします。本紀要第45号には7件の投稿があり、最終的に「研究論文」として6編の論文の掲載することができました。

地方自治体における分教室型不登校特例校の設置過程や設置状況を明らかにすることを通して、不登校児童生徒支援における分教室型不登校特例校の意義と課題を考察した論文（俵龍太朗会員）、タイの教育革新地区における「パイロット校」の制度実態を分析し、教育における地方分権や学校の自律性強化を企図する制度導入の意義と課題を明らかにした論文（橋本拓夢会員）、マサチューセッツ州における市民性教育改革に着目し、シヴィック・レディネスの内実とそれが追加された要因、シヴィック・レディネスを涵養するための市民性教育の方策について考察した論文（松原信喜会員）、米国の「全ての児童生徒が成功するための法」における州アカウンタビリティ・システムとそれに基づく学校改善規定の特徴を明らかにした論文（村上和蔵会員）、モンゴル国の教育（文化）科学大臣の発出した「2022年決定」にみる教員評価制度の現状、意義及び課題を考察した論文（古賀一博会員、LKHAGVA Ariunjargal会員、黒木貴人会員、BAT-ERDENE Dagiimaa会員）、高校教育系コースの教員へのヒアリング調査を通じて、コース運営の実際と課題を整理するとともに、高校の教育系コースが大学における教員養成の「前倒し」と位置づけられるのかを検討した論文（牧瀬翔麻会員、大西圭介会員、寝占真翔会員）です。

いずれの論文も編集委員による厳格な査読を経たものです。編集委員には的確な査読をしていただきました。執筆者も査読意見に誠実に対応していただき、結果的に非常に質の高い論文を掲載することができたと自負しております。会員の皆様のお手もとに届きましたら、ぜひご高覧ください。

紀要編集委員長 住岡 敏弘

【二】 研究促進委員会からの報告

2023年12月23日（土）、JR広島駅近くに新設された「広島大学きてみんさいラボ」において西日本教育行政学会第4回研究会を開催しました。本学会では毎年開催している大会に加えて、特に若手研究者の研究促進を目的として毎年12月に研究会を開催しています。コロナ禍で第42回大会（2020年度）と第43回大会（2021年度）がそれぞれ12月にオンライン開催となり、第44回大会（2022年度）も対面でしたが12月開催となったことから、研究会はこの間中止されてきました。第45回大会（2023年度）がようやく5月に開催できたことを受け、この度、研究会を4年ぶりに再開することができました。

研究報告は橋本拓夢会員（広島大学大学院・院生（D3）／日本学術振興会特別研究員DC）にお願いしました。発表題目「タイにおける地方教育ガバナンス改革に関する研究—「仏暦2560年（2017年）タイ王国憲法」下の法制改革と地方における運用実態に着目して—」について約1時間の発表が行われ、その後、休憩を挟んでさらに1時間以上にわたる活発な質疑応答が続きました。

今回は初の試みとして対面とオンライン（ZOOM）によるハイフレックス方式で実施し、対面参加14名、オンライン参加5名、合計19名の皆様にご参加頂きました。研究会終了後には懇親会も行われ、楽しいひとときを過ごすことができました。お忙しい中、ご参加くださった会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

研究促進委員長 吉田 香奈

[三] 学会会員の概況について

2024年5月24日現在、会員数は64名である。

[四] 寄贈図書について

※整理中。

コラム 海外研究の現在①

佐々木会員より、米国研究に着手するきっかけや海外研究の良さや難しさ等を含めて、ひろく米国の最近の学校事情をはじめ教育行政をめぐる諸状況についてご寄稿いただきました。

島根の片田舎に生まれ育った私は、一生で一度くらいは外国に行ってみたく、そう思って子どもの頃を過ごしてきた。大学生になって迷うことなくアメリカを研究対象にしたのは、高校時代に観たり聴いたりした映画や音楽の影響もあったのだろうが、今思えば、60年代～70年代にブラウン管テレビで放送されていたアメリカのマンガやセサミストリート、シット・コムと呼ばれる（ということを知りぬ後で知った）お茶の間向けドラマの、何とも言えない違和感や距離感のせいではなかったか。そう考えることがある。

アメリカに行くようになって35年が経つ。現時点で「おもしろい」と思っていることのひとつに、さらに教育行政機関化するチャータースクール（CS）の存在がある。学校には校長(principal)がいるが、校長は「教育」寄りの職名である。CSの場合、ディレクターといった名称が用いられることもあるし、大規模化、複数校化した近年では、各「学校」に校長ないしディレクターを配置したうえで、それらを統括する総責任者として「エグゼクティブ・ディレクター」、もしくは「スーパーインテント」(教育長)が置かれている。学校内学校、あるいは同一傘下のCS複数校を、より上方から管理・監督していく責任者といった存在である。

「CSは学区である。」この言葉を初めて聞いたとき、違和感しかなかった。「学校」が「学区」とはどういうことか。CSは、たしかにそれ自体が教育機関＝学校なのだが、それに留まらず、一般の学区から独立した行政機関、統治機関として自校の管理運営を執り行っている。そこに目をやれば、立派に学区(school district)なのである。



写真は、あるCSで「教育長」ほかスタッフと一緒に今春撮影したものである。CSという制度ができて35年が過ぎ、初期にCSを設立した人たちの多くはすでにリタイアしている。写真に写る「教育長」も数年前に着任したやり手のリーダーである。このCSは非通学型の教育スタイルをオンラインで取り入れたことで、生徒数もビジネス部門も大規模化した。20年前、初めて訪れたときそこにいた人たちは、

もう誰もいない。同校の成長を喜びつつ、寂しさ、距離感を覚えた3度目の訪問となった。

アメリカの学校に行くと教師にも児童生徒にも出会うが、そうした「教育」部門の人たちだけではなく、管理職、ビジネス部門のスタッフとの接触からも刺激を受け、学ぶことが増えた。おそらくは、私自身の年齢や現在の職務が影響してのことだと思う。そして、私にもリタイアの時が近づいていることを実感するのである。

山口大学 佐々木司

コラム 海外研究の現在②

続いて村上会員より、はじめての米国調査のご経験についてご寄稿いただきました。

米国・シアトル調査を通じた経験

私は、これまで、米国・カリフォルニア州を対象に研究を進めてきました。しかし、コロナウイルスの影響や金銭面を理由に渡米することができず、「米国にいきたい」という思いを胸にしまいながら過ごしてきました。

こうした中、藤村祐子先生や佐藤仁先生をはじめとした先生方から、シアトル調査のお誘いをいただき、今年の3月に渡米することができました。大変恐縮ではございますが、シアトル調査を通じた経験をお伝えできればと思います。

・英語での積極的なコミュニケーション

渡米前、一番不安だったことは、海外で自分の英語が伝わるかということです。今回のシアトル調査では、日常生活から調査にわたって、英語でコミュニケーションする機会が沢山ありました。

日常生活に関しては、自分が思っていたより、会話をすることができ、安心しました。一方、調査に関しては、質問する機会をいただきましたが、聞き取り・表現が上手くいかず、ネガティブな感情になる場面が多々ありました。しかし、言い換えやジェスチャーを駆使する等、失敗を恐れず積極的に話すよう心掛け、何とか質問を終えることができました。学区の方から“Good Question!”と褒めていただいたときはとてもうれしかったです。やはり、英語能力も必要ですが、積極的にコミュニケーションをとるといふ姿勢も重要だと身をもって感じました。

・パソコンから現実に飛び出した米国の教育

私は、これまで、米国を対象とした教育学研究をしながらも、その学校現場を生で見たことはありませんでした。そのため、学校への調査の際は、ワクワク感を抱きながら訪問させていただきました。



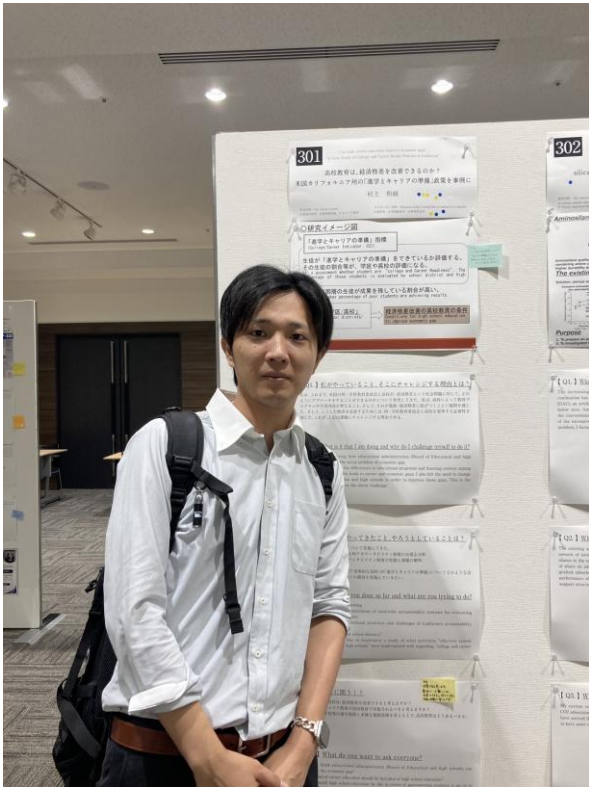
【シアトルの街並み】

実際に、米国の学校現場を見ると、先行研究や資料との違いを感じるだけでなく、その内容がより精緻化されました。まさに、パソコンを通して見てきた米国の教育（学）が現実に飛び出してきたかのような感覚でした。また、日本との違いも感じることができ、新たな価値観も得ることができました。米国の学校現場の実態を見たことは、私にとってとても大きな財産になりました。

以上、シアトル調査を通じた経験をお伝えしてきました。今年は、カリフォルニア州でのインタビュー調査を実施する予定です。シアトル調査を通じた経験を活かして、実りのある調査にしていきたいと思います。

最後に、この場をお借りして、シアトル調査にお誘いいただきました藤村祐子先生及び、佐藤仁先生をはじめとした先生方、そして、今回こうした貴重な機会をくださいました西日本教育行政学会 学会ニュース編集チームの先生方に心より厚く御礼申し上げます。

広島大学大学院・院生 村上 和巖



【別日・別場所でのポスター発表】

シニア会員だより

昨年度より「シニア会員」制度が設けられました。そこで新たにシニア会員となられた先生方から近況を含めたコメントをいただいております。今号では前原会員にご登場いただきます。ぜひご覧ください。なお、次号（年度末頃発行予定）では佐竹勝利会員、藤田弘之会員にご寄稿をお願いしております。

西日本教育行政学会シニア新入会に際して

前原 健三（武庫川女子大学名誉教授）



令和6年度より、シニア会員として、西日本教育行政学会に入会させていただくことになりました前原と申します。その前身の研究会時代(1979年)も含め本学会立ち上げの時期(1982年)から会員でしたが、浅学菲才に生来の不器用さも加わり、ワーキングバランス感覚を欠き、本学会活動に長らく積極的に参加すること叶わずにいました。にも係わりませず、退職後、新制度のシニア会員として入会させていただくことができ誠に有り難く存じます。ご高配を賜りました現会長の高妻紳二郎先生はじめ役員の皆様に、

深謝申し上げます。

本学会創設前後の時期(大学院生～助手の頃)からは、近現代ドイツにおける教育行政システムの構造と機能の特質について、研究関心を抱いておりました。私学就職後(1980年代以降)は、担当授業科目との関連性を考慮せざる得なくなり、幼稚園教員・保育士から初等中等諸学校までの教職・保育士課程の学内運営に時間を多く割くようになり、我が国の教員養成施策と私立大学における大学院修士課程をも含む教員養成を巡る理論と実践に研究関心を置くようになりました。高等教育と教員養成との接合領域に係る行政学的＝実践・実務の研究とでもいえるのでしょうか。中教審・文部科学省によります教職課程認定大学への実地視察の時期(2008年)に、たまたま勤務大学にて全学的教職課程運営の担当部署にも係わっておりましたため、「私学立学の精神に基づく高等教育及び教員養成における質保証システムの構築」という課題(例えば学内FD推進体制の整備や大学院も含めた教職指導体制の全学的整備充実など)を巡って、これを実務と研究の両面から遂行しました。さらに、このような経験を踏まえて、《教職課程コア概念としての教職実践》の社会構成主義的定義を試みましたが、未完成のまま定年退職(2018年)となり、その後非常勤講師として細やか乍ら継続探究中です。

本学会創立時より四十有余年、あっという間に時は流れたように感じられます。今振り返ってみ

ますと、特に教員養成の分野で言えば、教員としての資質能力の質保証どころか、教員志望者自体が激減するという逆説的事態を招き、現職教員とともに児童生徒を含む学校現場全体が、疲弊の極みに達しているようにさえ思われます。これらの現象は、この四十年来の学校改革や働き方改革等を巡る行政諸施策の不徹底さに、あるいはその他の多様な原因に起因するのでしょうか。このような状況の中で、我が国のみならず海外諸国の高等教育及び教員養成行政とその施策・運用等を巡ります諸研究や実践・実務等の課題とともに、広く教育行政学研究全般に互って、会員皆様によります最新のご研究に、ご迷惑をおかけしない範囲で・学ばせていただきたく存じます。

最後になりましたが、本学会創立期前後より、厳しくも慈悲深くご指導賜りました故中島直忠先生、故名和弘彦先生、故上原貞雄先生はじめ、本学会歴代の、そして現在の顧問・会長の諸先生方並びに役員・会員の皆様に心より感謝申し上げますとともに、シニア新入会員として、何卒宜しくご指導のほど賜りますよう、改めてお願い申し上げます次第です。

令和6年8月18日

前原健三（武庫川女子大学名誉教授）

西日本教育行政学会第 5 回研究会のご案内

西日本教育行政学会第 5 回研究会を下記の通り開催を予定しております。

日時：2024 年 12 月 22 日（日）15 時～17 時 30 分

場所：広島大学きてみんさいラボ

（〒732-0822 広島県広島市南区松原町 2 番 62 号広島 JP ビルディング内 2 階

TEL:082-207-1764)

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/kiteminsailabo>

発表者：川本吉太郎会員（広島大学教育ヴィジョン研究センター特任助教）

発表題目：日本における「非通学」による高校教育機会保障に関する研究—通信制課程に注目して—

※対面と ZOOM のハイフレックス方式で開催します。

※終了後に広島駅周辺で懇親会を実施します。

※出欠および参加方法については 11 月中旬頃にアンケートを実施します。

新入会員の紹介

◇ 平山 大晟 会員（広島大学大学院・院生）

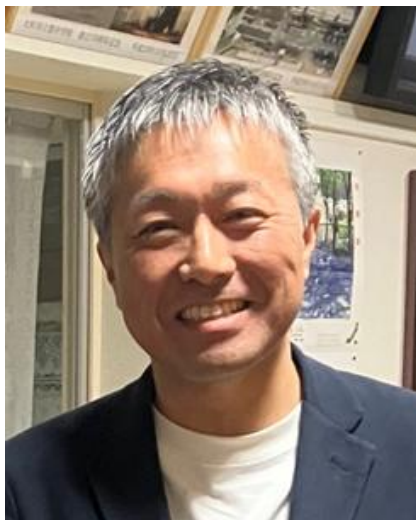
広島大学大学院博士課程前期の平山大晟（ひらやま たいせい）と申します。伝統ある本学会に



入会でき、大変光栄に存じます。小規模自治体における子どもの権利保障に関心があり、これまでは小規模自治体における学習支援事業について研究してきました。現在、具体的には教育行政・子ども行政の組織編成・組織間調整、及びこれが目指す子ども参加の保障に向けた施策に注目しております。精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

◇ 小杉 進二会員（山口大学）

今年度より、山口東京理科大学から山口大学へ異動して参りました。本学会には、本学の佐々木司先生のご紹介・ご推薦で入会させていただき運びとなりました。



専門、と言うにはまだあまりにも頼りないのですが、主な研究関心は、教師の人事行政と、それが教師のキャリア発達に与える影響についてです。

これから多くの会員の皆様方に学び、議論し合うことができますことを楽しみにしております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新入会員の皆様、これからどうぞよろしくお願い申し上げます！
(事務局一同)



次回大会について

次回大会は広島大学にて実施する予定です。詳しくは次号学会ニュース（年度末発行予定）でお伝えいたしますので、今しばらくお待ちください。

研究助成について

7月末日に締切を迎えた西日本教育行政学会研究助成ですが、今年度は応募者がいませんでした。次年度はぜひ積極的にご応募いただきますようお願いいたします。

事務局・学会ニュース編集チームからのお願い・お知らせ

・ 会費納入のお願い

学会費未納の方はお支払いただきますようお願いいたします。会費は年額 6,000 円（学生会員は 3,000 円）となっております。また、過年度分を未納の方は、それにつきましてもよろしくお願ひ申し上げます。

郵便振替口座番号 01760-9-165544

加入者名 西日本教育行政学会

*会則で「3 年以上会費納入を怠った者は、本会から除名されることがある」（第 7 条）と規定されておりますので、申し添えます。

・ コラム等への執筆者を募集しています！

前号より学会ニュースを一新いたしました。今後、学会ニュースは年 2 回の発行を予定しております。いくつかの「コラム」企画を「学会ニュース編集チーム」にて検討しております。次号では「シニア会員だより」だけでなく、「教育行政学関連科目の授業紹介」や「私の最近の研究関心」を掲載する予定です。コラムに寄稿いただける会員を募集しております。自薦・他薦は問いませんので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします！なお、「ぜひこの内容を会員の先生方にお伝えしたい！」という企画案のご提示もお待ち申し上げます。

編集後記

学会ニュース第 68 号をお届けいたします。前号から「シニア会員だより」として新たに「シニア会員」となられた先生方からリレー形式的にご寄稿をいただいております。次号は佐竹勝利会員、藤田弘之会員にご寄稿をいただく予定となっております。ぜひ楽しみにお待ちいただけますと幸いです。また、コラムとして「海外研究の現在」を企画いたしました。副会長の佐々木会員や村上会員のご寄稿もぜひご覧ください。ご自身のお写真の提供依頼とともに限られた字数での原稿依頼をさせていただいたにも関わらず、読み応えのある内容となっております。今回ご執筆いただいたすべての会員の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

次号以降も充実した学会ニュースとなるよう編集チーム一丸となって取り組みますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(原北祥悟)

【学会ニュース編集チーム】

原北 祥悟（崇城大学）、小早川 倫美（島根大学）、黒木 貴人（福山平成大学）
唐澤 健（教職員支援機構）、橋本 拓夢（広島大学大学院・院生）